

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700100		
法人名	丸信産業株式会社		
事業所名	グループホーム光の家族		
所在地	北海道中川郡豊頃町中央新町50-1		
自己評価作成日	平成28年11月16日	評価結果市町村受理日	平成28年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0194700100-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念を「その人を理解し前向きな目標をもってもらい、明るい笑顔でその人らしく生きていけるようお手伝い、また、そういう環境を作ります」とし、緑に囲まれた環境と、開放的な建物の中で利用者さんに快適に過ごしていただけるように職員が気配りをしています。
職員が利用者さん一人ひとりの行動を見守りながら、明るい環境作り励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成28年4月にこれまでの理念は職員にとって事業所の方向性を示すものとして浸透していないと考えた代表者、管理者は新しい理念の策定に取り組み、職員個人面談を重ね一人ひとりの思いの集約を新しい理念とした。それは、「その人を理解し前向きな目標を持ってもらい、明るい笑顔でその人らしく生きていけるようお手伝い、また、そういう環境を作ります」として利用者が、その人らしく、本人の意向で暮らせる様なグループホームとしてのあり方を、模索している。職員は、契約時から同じ利用者を担当し、馴染みの関係になって何でも表意できる関係が構築されている。利用者の行動には必ず理由があり、その解明が穏やかな暮らし方の実現になっているとの信念で介護に取り組んでいる。また、事業所は行政との適切な関係が構築されており、運営推進会議には町担当者や地域包括支援センターの保健師さんが出席したり、洪水時の避難確保計画作成のために行政との会議を行っている。災害時における避難訓練も火災以外に地震発生時の訓練にも取り組んでいる。本年は法人内での組織変更があり、さらに改善に向け取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設職員と面接を行い、理念を決めたが施設職員全員の共有するところまでは至っていない。	本年、個人面談を行いながら、職員一人ひとりの思いを把握して、管理者が文章化し新しい理念を定めた。出入り口や事務所に掲示している他、パンフレット、重要事項説明書に記載して利用者、家族、見学者にも理解が得られる様取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流の機会を設けたが、地域の一員としてという位置づけでは日常的に交流までには至っていない。	町内会区長の協力が得られており、回覧板を利用させて頂き、グループホームの小学生向け行事案内を行い、参加を得ている。その他秋祭りには神輿が巡回し、利用者と参加して近隣住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をサービスに活かきれていない。	運営推進会議は、利用者家族、区長、民生委員、町職員、地域包括支援センター職員(保健師)、社協職員等の出席を得て開催し、利用者状況、サービス内容、生活状況他、事業所の運営状況を報告し意見をj得てサービス向上に取り組んでいる。全家族に議事録を送付して情報共有に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの利用等での連携はある。	地域包括支援センターからは、アドバイスやデイサービス利用者の紹介を得ている。また町からは、洪水災害の避難計画作成で協議を行い、情報や指導を得ており協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。	身体拘束廃止に向けては、毎月のミーティングの中で話し合いが持たれている他、職員は本年の資格取得の中でも研修を受けており、身体拘束が及ぼす弊害や禁止対象行為、不適切な言動や行動抑制について理解し、身体拘束の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設けてはいない。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を理解していない職員がいる。施設側が認めたことが職員に伝わらないことがある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、利用者がどれだけ言いたいことがあって、そのうち、どの程度家族、本人が伝えていられているの不明。反映できているのかも「わからない。	利用時から同じ職員が担当になって馴染みの関係が構築されており、利用者の意見や要望は日常の会話の中で把握されている。家族の意見や要望は面会時の会話の中で把握し、運営に反映させている。日常の様子は毎月の便り「レッツ、ひかり」の中でも報告がされている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの機会を設けているが、自分の意見を言っていない人もいるため、反映できているとはいきれない。	代表者、管理者は年度当初の個人面談や、毎月のミーティングや日常の業務の中で職員の意見や要望、提案を把握し運営に反映する様努めている。また、会議の中では介護についての対応統一の確認を行って、適切な対応が出来る様取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持てる環境ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容によって、職員を派遣。職員が研修後に報告を行っているが、口頭で伝えるのが難しいこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望などで組み上げきれていないと思う。 難しいケースについては、ミーティングで相談する機会があっても良いと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接時に、入所後の希望などを聞き取りを行っているが、施設で出来ることと出来ないことをきちんと説明しきれていない部分がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施できていない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、ウエス作りを手伝ってもらっているが、できる利用者に限られてしまっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の勤務と家族が面会にみえられるときが重ならないため、ゆっくりと関係を築けない。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する機会が少なく、交流が少なくなっている。	利用者がこれまで通っていた馴染みの美容室との関係が途切れないように希望がある時は支援を行っている。事業所には理容店の訪問があるが時にはお店での理髪を希望される利用者があり、事業所で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	実施できていない。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で会ったときには挨拶をするが、経過のフォローや相談、支援には至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員主体になっている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は契約時の生活歴や、ケアプラン見直し時のアセスメントで把握している。また、利用時に決まった担当者は継続され、意向に沿った生活実現に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握するように努めているが、実践までには至っていない。 把握しても、町外からの入所の場合役に立たない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や発言については、申し送りのときに話し合い、共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ていない。	介護計画は基本的に短期目標の期間である6か月ごとに管理者、ケアマネジャー、計画作成担当でモニタリングを行い、利用者、家族の希望を反映させ見直しを行っている。24時間支援シートにはケアプランの目標や提供するサービスが記載され、職員が共有できるようになっており適切な介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有はしているが、介護経過の見直しに活かされているかは不明。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	取り組んでいない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診での報告等も行っており、実施できている。	町内の協力医療機関への通院は事業所対応で行い、家族へ報告している。町外の医療機関へ家族と出かける場合は、介護添書で情報を提供している。協力歯科医が必要時には往診してくれる事になっており、適切な医療が受けられる様に支援している。	

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	取り組んでいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	取り組んでいない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいない。	入居時に重度化した場合や終末期の対応について、事業所で取り組める範囲を説明し、理解を得ている。介護度が進んで来た時には利用者、家族と話し合いの機会を設け特別養護老人ホームへの申し込みの説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けているが、全職員が実践力を身に付けてはいない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っているが、職員全員ができるかは不明。地域との協力体制については、現状では難しい問題などもあり、実施できていない。	年に2回火災及び自然災害の避難訓練を消防署の協力を得て実施している。今年の台風被害時に避難を経験しており、行政との連携を密に取りタイムラインを作成し対策を検討している。停電時の寒さ対策として、ポータブルストーブとカセットストーブを用意している。	今年度、夜間対応の火災訓練は実施していない状況となっている。又、地域住民との協力関係構築も運営推進会議で要請しているが、実現はこれからとなっている。地域住民との具体的な協力体制構築と、ライフライン断裂等のその他の災害対策の更なる取り組みを期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どうしても話し掛けの声が大きくなってしまい、周囲が不快に感じてしまうことがある。	管理者、職員は利用者の人格を尊重し、尊厳に配慮した対応を心がけている。呼びかけは基本的にはさん付けで行っているが、家族と相談し、状況に合わせた対応を取っている。記録の保管も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話で希望などがあれば、解決できるように職員間で相談することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が主体になってしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できている。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日一緒に準備はしていないが、季節を感じてもらえるようにはおはぎ作りやおせち作りを手伝ってもらっている。	調理専門職員が在籍しており、季節感やバランスに配慮した献立を作成し、メニュー表は毎月家族に送付している。おはぎ作り等利用者の経験を活かした取り組みや、職員と共に準備や後かたづけを行い、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援できている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援は行っていないが、今の身体状況に合わせた排泄環境を作ったり、排尿の間隔をチェックして排泄の声掛けを行っている。	排泄記録を参考にタイミングを把握して、一人ひとりに合わせた対応で排泄支援に取り組んでいる。声をかける時にはプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設として、薬に頼らずに出来るだけ自然な排便が出来るように食材を工夫したり、飲み物を工夫しているが、個々には応じきれていない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中が入浴時間なのと、デイサービスを受け入れている関係で、入浴者をあらかじめ決めている。本人の体調や拒否がみられたときには、入浴者を入れ替えている。	体調を考慮し、週2～3回は入浴出来る様に支援している。入浴時間はあらかじめ決まっているが、利用者の希望や状況でシャワー浴、同性介助等、希望に沿った対応に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように、薬箱や薬ケースに記載し、服薬の支援を行っている。症状の変化に気づけるように、内服の変更があったときには日誌に記載し、職員に周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやカラオケを行っているが、生活歴を生かした支援までは至っていない。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望があれば、付き添っている。受診に合わせて、買い物に行くこともある。家族や地域の人との協力関係には至っていない。	気候がよい時には、近隣を散歩したり、畑を見たり、事業所前に置いたベンチで外気浴を楽しんでいる。利用者担当者と買い物や道の駅に出かける等、個別支援に取り組んでいる。	外出支援は個別支援が中心となっている。事業所の行事として季節毎の外出支援等も検討して行く事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かり、本人の希望や必要に合わせて買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設からの通信で、近況を報告しているが、自分からの電話や手紙のやりとりの支援は行っていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の飾り物をし、心地よくなるように工夫している。	前面がガラス張りの開放感のある事業所内は、ロールカーテンによる光の調節や温湿度の調節がされ快適な居住空間を提供している。利用者が利用しやすい様に配置されたソファや鉢植えの草花、利用者と制作した季節の飾りつけが、和やかな家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3か所配置し、横になって休めたり、2人で座ってお話できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持参してもらうようお願いしている。	居室には利用者を使い慣れた家具やベッド、仏壇等が持ち込まれ、その人らしい部屋作りとなっている。各部屋に温湿度計が設置され、居心地よく過ごせる様に注意が払われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を知らせる表札や、“入浴中”の札を浴室の前に置き、安心して入浴できる環境作りを行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 光の家族

作成日：平成 28年 12月 13日

市町村受理日：平成 28年 12月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	個別支援での外出の機会は設けているが、グループホームの行事として、利用者全員での外出計画は行っていない。利用者全員での外出の機会を設ける。	利用者全員での外出レクリエーションの起案、実行。	1.利用者どこに外出をしたいかの希望を聞く 2.希望をもとに、外出先を決める 3.ご家族にも外出についての説明をし、了解を頂く 4.日程についてなど具体的なことは、職員間の話し合いで決めていく	10ヵ月
2	35	火災、災害の対策の一環として、地域住民との協力関係を築きたいと思っているが、実現には至っていない。 また、ライフラインが断裂した場合の備蓄がなされていない。	地域住民との協力関係の構築。 ライフラインが断裂した場合に備えての備蓄の準備。	1.運営推進会議で地区の区長さんと相談しながら、どういった方法が良いのかを考える 2.消防署にも協力を依頼し、グループホームで出来ることを考える 3.食品、水などの備蓄の準備を行う	12ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。